

公益社団法人 気仙沼法人会

法人 気仙沼 ニュース せんなま

No.143
29.7.31



サンオーレそではま

平成 29 年度定時総会	2
平成 29 年度事業計画	3
平成 28 年度正味財産増減計算書【決算】	4
平成 29 年度正味財産増減計算書【予算】	5
平成 28 年度社会貢献大賞表彰	6
平成 29 年度青年部会・女性部会総会	7
宮城県女連研修	8
会社の看板～ブランドを考える～	10
セミナーのご案内	11
暑中見舞	12



了することができた。会員皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げる。

平成二十九年度定時総会が五月二十四日サンマリン気仙沼ホテル観洋において、会員や来賓の気仙沼税務署千葉稔署長他、多数の出席のもと開催された。

はじめに足利会長より「当会は昨年度創立四十周年社団化三十五周年を迎え、六月にジャーナリストの櫻井よしこさんを講師に招き講演会、十月には記念式典と祝賀会を開催した。その際には大勢の方々においでいただき、成功裏に終

るよう努力する。」との挨拶があった。

震災の年から早いもので六年余りが経ち、市内では、大島架橋の本体設置工事や市立病院の新築工事完成、南三陸町では、新さんさん商店街、南三陸ハマーレ歌津の開店、三陸道の北進など、日を追うごとに新たな風景が出現し、確実に前進していると感じられる。しかし、復興が進むにつれて新たな問題が発生する複雑な様相を呈しており、依然として問題は山積している。各会員事業所におかれては人手不足や販路の確保など、先行き不透明で大変厳しい状況下であることに変わりない。国をはじめとする行政サイドに対しましては、被災地の実情をふまえ、柔軟できめ細やかな対応を強く期待するものである。

法人会の活動については、女性部会、青年部会との連携を密にし、セミナー・講演会・租税教室など、今年度も活発な活動を展開出来

引続き永年に亘って当会の発展に貢献された役員三名、同一事業所で十五年以上経理事務に従事し企業の発展に寄与した経理担当者五名、厚生制度推進に功労のあった六社に表彰状と記念品の授与が行われた。

この後議事に入り、①平成二十九年度事業②平成二十九年度事業計画③平成二十九年度収支予算の三項目を報告し議案審議に移った。議案審議では、第一号議案・平成二十八年度収支決算承認の件が説明の通り可決された。

第二号議案・任期満了に伴う役員改選の件では理事三十名、監事三名が選出された。新理事による互選の結果、熊谷光良会長が選任され、副会長・専務理事がそれぞれ選任された。

新年度役員

●会長

熊谷光良（熊谷電気株）

●副会長

岡本 寛（株岡本製氷冷凍工場）

高橋台蔵（株高橋マネジメント会計）

熊谷智範（株マルヤマ）

高橋和志（株高橋工業）

阿部 隆（株阿部伊組）

山本富士男（有山本セメント）

●専務理事

熊谷秀一（気仙沼商工会議所）

●理事

佐藤亮輔（株カネダイ）

菅原昭彦（株男山本店）

千田満穂（宮城三菱自動車販売株）

内海哲郎（有菓子舗うつみ）

小泉 進（株小野良組）

浅倉眞理（株三陸新報社）

渡邊うめ子（有亀甲運輸）

臼井真人（株白真倉庫）

吾妻隆男（有吾妻モーター）

郷古良英（株郷古紙店）

石川雅治（有石川電気商会）



菅野秀寿（株菅野ビジネスセンター）

生駒正博（株東北安田）

高橋正樹（株気仙沼商会）

谷村明信（アーバン株）

亀谷拓也（有根口商店）

畠山 淳（株大谷観光）

三浦 豊（有三浦板金工業）

山内一功（有山内金物店）

高橋 渡（高橋工業株）

藤谷廣司（阿部藤建設株）

伊藤和長（丸井伊藤屋株）

●監事

熊谷英宣（株大信）

鈴木淳平（株ホテル松軒）

宮井和夫（株気仙沼観光タクシー）



◆永年勤続役員表彰

(株)東北安田 生駒 正博
高橋工業(株) 高橋 渡
(株)阿部藤建設 藤谷 廣司

◆永年勤続功労

経理担当者表彰

(株)足利本店 小山 光義
(株)阿部伊組 高橋 美恵
(株)阿部長商店 小松三津子
医療法人移川哲仁会

鈴木 直人
門脇 丈幸

◆厚生制度推進功労表彰

(株)トラストパートナー
メットライフ生命保険(株)
(株)オネスト
吉田加奈恵
(有)ケイフク保険企画

(敬称略)

平成二十九年 度

事業計画

事業活動基本方針

1 適正公平な税制と租税負担の合理化を図るため、総力を結集して政府・国会並びに政党に対して(公財)

2 全国法人会総連合を通じて強力な要望を行い、その実現を期する。

3 税務当局との相互信頼により、税務行政の円滑な運営に協力し、申告納税制度に寄与する。

4 自計主義を徹底し、経営の合理化を図るとともに、自主申告体制を確立するため誠実な記帳と適正な申告の指導に努める。

5 企業経営の健全を期し、企業の合理化、生産性の向上を図るため経営・経理・労務に関する研究指導を行う。

6 (公財)全国法人会総連合、東北六県法人会連合会、(二社)宮城県法人会連合会および関係友誼団体と連絡

協調を図るとともに、本会の公益法人としての目的達成に必要な事業を実施する。

6 会員企業、地域経済復興に向けての支援事業、情報提供を実施する。

活動内容

1. 税知識の普及と納税意識・納税道義の高揚並びに財政及び税制・税務に関する調査研究・提言に関する事業(公1)

(1) 税知識の普及を目的とする事業

①税務研修会②税や財政講演会③新設法人説明会・決算申告説明会④参考本、テキストの配付(自主点検チェックシート)の普及、推進

(2) 納税意識の高揚を目的とする事業

①広報誌の発行②ホームページによる税情報の広報③租税教室④税の絵はがき募

(1) 地域社会貢献を目的とする事業
①社会貢献大賞表彰②学校関係、公共・福祉施設等への物品寄贈③講演会の開催

4. 会員相互の情報交換並びに交流に関する事業、経営支援事業及び入会促進に関する事業(他1)

(1) 会員増強運動の充実

①新設法人情報取得②支部による会員勧奨③役員合同会議

(2) 会員交流に資する事業

①新年会員交流会②総会交流会③役員合同会議交流会④部会移動研修会⑤部会視察研修会⑥支部交流会

(3) 会員福利厚生等に関する事業

①経営者大型保障制度の普及推進②ビジネスガйдの普及推進③がん保険制度の普及推進④貸倒保証制度の普及推進⑤PET検診の普及推進

(4) 支部、部会の充実

①部会研修会②支部研修会

3. 地域社会の健全な発展に貢献することを目的とする事業(公3)

平成28年度正味財産増減計算書【決算】

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

公益社団法人気仙沼法人会

科目	当年度	前年度	増減	適用
1.経常増減の部				
①基本財産運用益	2,005	2,000	5	基本財産利息収入
②特定資産運用益	2,606	2,357	249	周年記念事業積立資産利息収入
③受取会費	8,940,800	8,893,300	47,500	
④事業収益	464,397	472,754	△8,357	
⑤受取助成金等	6,367,200	5,660,475	706,725	
⑥受取負担金	1,189,000	949,000	240,000	
⑦受取寄付金	100,000	50,000	50,000	岳南法人会(静岡県)から震災義援金
⑧雑収入	1,163,149	867,732	295,417	
経常収益計	18,229,157	16,897,618	1,331,539	
①事業費	16,724,341	13,135,984	3,588,357	
役員報酬	0	9,600	△9,600	宮城県連委員会等出席日当
給料手当	4,629,280	4,558,880	70,400	職員給与・手当
退職給付費用	38,400	38,400	0	特退金掛金
福利厚生費	794,570	736,085	58,485	職員福利厚生費・労働保険料・障害保険料
旅費交通費	452,130	430,842	21,288	セミナー講師旅費等
通信運搬費	599,202	530,143	69,059	研修会案内発送費・電話使用料
印刷製本費	573,654	472,969	100,685	研修会テキスト印刷
会議費	138,600	49,680	88,920	委員会開催費
広報制作費	336,000	336,000	0	広報誌制作費(構成割合)
会場費	1,013,278	589,598	423,680	研修会、周年事業開催会場代
諸謝金	2,489,797	1,961,746	528,051	研修会・講演会講師謝金
広告宣伝費	354,996	361,557	△6,561	研修会案内広告掲載料
会員交流費	3,427,654	1,538,360	1,889,294	総会・賀詞交歓会・周年祝賀会等
支払負担金	0	42,000	△42,000	全法連全国大会登録料・部会全国大会登録料・他負担金
支払寄付金	504,130	402,192	101,938	社会貢献事業寄贈品購入費、イベント協賛
表彰費	729,708	458,288	271,420	社会貢献事業賞金・周年事業表彰
消耗什器備品費	16,000	0	16,000	プリンター代
消耗品費	9,886	17,980	△8,094	事務用品
賃借料	570,240	570,240	0	事務所賃借料
燃料費	12,288	10,368	1,920	車両ガソリン代
雑費	34,528	21,056	13,472	諸雑費
②管理費	3,646,387	3,606,749	39,638	
役員報酬	31,200	50,400	△19,200	宮城県連委員会等出席日当
給料手当	1,157,320	1,139,720	17,600	職員給与・手当
退職給付費用	9,600	9,600	0	特退金掛金
福利厚生費	198,642	184,021	14,621	職員福利厚生費・労働保険料・傷害保険料
旅費交通費	239,030	305,340	△66,310	役職員旅費・部会旅費
通信運搬費	303,190	352,322	△49,132	会議案内発送費・電話使用料
印刷製本費	121,056	125,180	△4,124	総会・理事会・支部・部会会議資料印刷製本費
会議費	260,604	275,930	△15,326	役員会開催費
広報制作費	84,000	84,000	0	広報誌制作費(構成割合)
諸会費	348,000	348,000	0	県連会費・県青連会費・県女連会費・各団体会費
支払負担金	92,000	78,000	14,000	県連総会・6県運営協議会・諸団体行事参加負担金
支払委託費	252,000	252,000	0	各支部事務委託費
租税公課	105,000	84,700	20,300	法人税、市県民税等
新聞図書費	19,800	0	19,800	新聞購読料
慶弔費	177,220	148,510	28,710	慶弔費用
消耗什器備品費	4,000	0	4,000	プリンター代
消耗品費	2,781	4,495	△1,714	事務用品
賃借料	142,560	142,560	0	事務所賃借料
燃料費	3,072	2,592	480	車両ガソリン代
雑費	95,312	19,379	75,933	本部・支部・部会の諸雑費
経常費用計	20,370,728	16,742,733	3,627,995	
当期経常増減額	△2,141,571	154,885	△2,296,456	
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益	3,100,000	200,000		
周年事業積立取崩収入	2,900,000			周年事業積立定期解約分組入れ
部会周年行事積立	200,000	200,000		青年部会・女性部会周年行事積立
(2)経常外費用	3,100,000	200,000		
周年事業積立取崩	2,900,000			周年事業積立定期解約
部会周年行事積立支出	200,000	200,000		青年部会・女性部会周年行事積立支出分
当期経常外増減額	0	0		
当期一般正味財産増減額	△2,141,571	154,885		
一般正味財産期首残高	23,276,097	23,121,212		
一般正味財産期末残高	21,134,526	23,276,097		
3.正味財産期末残高	21,134,526	23,276,097	△2,141,571	

※周年事業算入

平成29年度正味財産増減計算書【予算】

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

公益社団法人気仙沼法人会

科目	当年度予算	前年度予算	増減	適用
1.経常増減の部				
①基本財産運用益	2,000	2,000	0	基本財産利息収入
②特定資産運用益	1,200	2,000	△800	本部・部会周年記念事業積立資産利息収入
③受取会費	8,545,000	8,245,000	300,000	
④事業収益	410,000	350,000	60,000	
⑤受取助成金等	5,875,100	5,818,200	56,900	
⑥受取負担金	837,000	795,000	42,000	
⑦受取寄付金	0	0	0	
⑧雑収入	601,000	351,500	249,500	
経常収益計	16,271,300	15,563,700	707,600	
①事業費				
役員報酬	5,000	9,600	△4,600	宮城県連委員会等出席日当
給料手当	4,640,000	4,640,000	0	職員給与・手当
退職給付費用	249,600	38,400	211,200	中退金掛金
福利厚生費	770,000	780,000	△10,000	職員福利厚生費・労働保険料・障害保険料
旅費交通費	273,000	360,000	△87,000	講師旅費・役職員旅費・部会旅費
通信運搬費	544,000	552,400	△8,400	研修会案内発送費・電話ファックスインターネット使用料
印刷製本費	350,000	659,800	△309,800	研修会テキスト印刷
会議費	58,000	27,600	30,400	委員会開催費
広報制作費	336,000	336,000	0	広報誌制作費（構成割合）
会場費	445,000	710,500	△265,500	研修会・講演会等会場代
諸謝金	1,600,000	2,250,000	△650,000	研修会・講演会講師謝金
広告宣伝費	266,000	470,600	△204,600	研修会等案内広告掲載料
会員交流費	1,500,000	2,990,000	△1,490,000	本部・支部・部会会員交流会費用（総会・新春交流会含む）
支払負担金	100,000	100,000	0	全法連全国大会登録料・部会全国大会登録料・他負担金
支払寄付金	250,000	250,000	0	各支部社会貢献事業寄贈品購入費
表彰費	555,000	771,000	△216,000	社会貢献事業賞金・永年勤続功労経理担当者表彰
消耗什器備品費	40,000	24,000	16,000	備品
消耗品費	41,700	35,700	6,000	事務用品
賃借料	570,400	570,400	0	事務所賃借料
燃料費	9,600	9,600	0	車両ガソリン代
雑費	22,800	120,400	△97,600	諸雑費
②管理費	3,639,400	3,722,100	△82,700	
役員報酬	40,000	60,000	△20,000	県連会議等日当
給料手当	1,160,000	1,160,000	0	職員給与・手当
退職給付費用	62,400	9,600	52,800	中退金掛金
福利厚生費	200,000	200,000	0	職員福利厚生費・労働保険料・傷害保険料
旅費交通費	200,000	357,000	△157,000	役職員旅費・部会旅費
通信運搬費	360,000	283,000	77,000	研修会案内発送費・電話ファックスインターネット使用料
印刷製本費	130,000	108,000	22,000	総会・理事会・支部・部会会議資料印刷製本費
会議費	300,000	350,000	△50,000	本部・支部・部会会議開催費
広報制作費	84,000	84,000	0	広報誌制作費（構成割合）
諸会費	348,000	349,000	△1,000	県連他各団体会費
支払負担金	100,000	140,000	△40,000	県連他諸団体行事参加負担金
支払委託費	252,000	240,000	12,000	商工会へ各支部事務委託費
租税公課	100,000	100,000	0	法人税、市県民税等
新聞図書費	20,000	20,000	0	新聞購読料
慶弔費	100,000	85,000	15,000	本部・支部・部会の慶弔費用
消耗什器備品費	10,000	6,000	4,000	備品
消耗品費	8,000	10,000	△2,000	事務用品
賃借料	142,600	142,600	0	事務所賃借料
燃料費	2,400	2,400	0	車両ガソリン代
雑費	20,000	15,500	4,500	本部・支部・部会の諸雑費
経常費用計	16,265,500	19,428,100	△3,162,600	
当期経常増減額	5,800	△3,864,400	3,870,200	
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益	0	3,500,000		周年事業開催費
(2)経常外費用	0	3,500,000		周年事業開催費
当期経常外増減額	0	0		
当期正味財産増減額	5,800	△3,864,400		

平成二十八年 度 社会貢献大賞表彰

当会社会貢献委員会は、平成二十八年 度社会貢献事業として第十四回目となる社会貢献大賞の選考を行い、平成二十九年 度定時総会懇親会席上に各団体代表者を招き、表彰状と金一封を贈呈しその功績を称えた。

地域交流部門賞

一般社団法人ボランティア

ステーションN気仙沼

(気仙沼)

震災後仮設住宅への入居が進むにつれ新たなコミュニ



ニティーの必要性に迫られたことをきっかけに、地元住民が中心となって、そこで生きる人たちの手による「ふるさとづくり」をより活性化することを目指し、仮設住宅での自治会組織づくりや連絡会(交流会)の立上げ、仮設住宅の見守り支援やサロン活動、花植えプロジェクト等に取り組んでいる。また、気仙沼地区での復興支援活動を続けるNPO事業者・地域組織が情報交換・意見交換ができるネットワークづくりを進め、情報拠点として地域や団体とのマッチング、復興ニュースの発行等を行うとともに、行政・支援・被災者間の意見や考えを共有するネットワークも構築している。

社会福祉部門賞

松岩婦人会(気仙沼)

座・研修会を開催し教養を培いながら活動している。震災以降は歌津地区の伊里前福幸商店街において花寿司の無料提供を三年間続けたのをはじめ、歌津地区内三ヶ所の仮設住宅において定期的なお茶会を開催。入居者の目の前で抹茶を振る舞い、懇談の場を提供している。これらの取組みはコミュニティづくりや高齢者の孤立防止などに繋がっている。

生涯学習推進部門賞

特定非営利活動法人

びば!南三陸(志津川)

平成二十五年十月「いぶし銀倶楽部」が前進で平成二十七年八月「びば!南三陸」として活動開始。地元の方々(シルバー世代が中心)に対し、あそびば(趣味教室)・まなびば(技能習得・各種講座)・むすびば(交流・情報交換)を提供することにより、地域での「生きがい・楽しみを見つける」ことを目的としている。

これにより児童の安全のため活動継続の必要性を痛感し、退任後においても津谷小学校付近において毎日朝の登校時間にボランティアで見守り活動を継続し、犯罪の無い安心安全な地域社会の発展に寄与している。

座・研修会を開催し教養を培いながら活動している。震災以降は歌津地区の伊里前福幸商店街において花寿司の無料提供を三年間続けたのをはじめ、歌津地区内三ヶ所の仮設住宅において定期的なお茶会を開催。入居者の目の前で抹茶を振る舞い、懇談の場を提供している。これらの取組みはコミュニティづくりや高齢者の孤立防止などに繋がっている。

青少年育成部門賞

大内康弘氏(本吉)

平成十八年から二十一年まで宮城県地域学校安全指導員として不審者事案等に適切に対応し、児童の安全確保に努めてきた。

観光振興部門賞

唐桑観光ガイドの会

(唐桑)

唐桑町内の観光や伝統芸能保存会関係者が一体とな

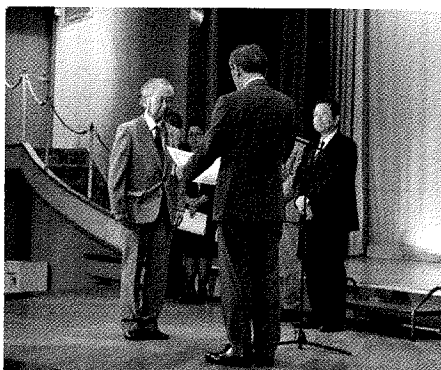
り、その土地ならではの自然や文化に親しめるツアーなど、地域資源を活用した観光提案を積極的に実施し観光振興に結び付けている。平成二十九年一月から宮城オルレ(トレッキング)気仙沼・唐桑コースの実地調査を進め、その策定に向けた活動を行っている。

歌津婦人会(歌津)

歌津地区における地域貢献を目的に、毎年多数の講

平成二十五年十月「いぶし銀倶楽部」が前進で平成二十七年八月「びば!南三陸」として活動開始。地元の方々(シルバー世代が中心)に対し、あそびば(趣味教室)・まなびば(技能習得・各種講座)・むすびば(交流・情報交換)を提供することにより、地域での「生きがい・楽しみを見つける」ことを目的としている。

また、草刈や墓石掃除など地域の方々の依頼にも対





青年部会の平成二十九年度通常総会が、去る五月十二日ゲストハウスアーバンで開催された。

第一号議案 平成二十八年度事業報告並びに収支決算承認の件、第二号議案 平成二十九年度事業計画案並びに収支予算案承認の件が原案通りに可決された。

事業計画案としては例会の開催、厳しい経済環境を乗り越える為の経営知識の習得、会員の自己啓発を図る。十一月には「全国青年の集い高知大会」への参加。親会である公益社団法人気仙沼法人会の実施事業に対して全面的な支援を行う。さらに会員増強により、組織の拡充と会員の意識の高揚に努める。

第三号議案 役員改選の件については、幹事八名、監事二名が選任され、互選により部長、副部長が選出された。



総会終了後行われた懇親会では、相互に親睦をはかりつつ、和やかな雰囲気の中新年度のスタートをきった。

新役員は次の通り。

◆**部長**
谷村 明信・アーバン(株)

◆**副部長**
小野 寺健二・(有)小野健商店
宮井 和夫・(株)気仙沼観光タクシー
原田 雄介・(有)原田新聞店

◆**幹事**
千葉 清英・(株)千葉一商事
阿部 寿一・(株)丸寿阿部商店
吉越 稔・(有)吉越組
藤田 一平・(有)藤田製函店

◆**監事**
菅野 潔・(株)菅野自動車
千葉 健・アサヒ冷熱(株)



副部長 石川尚美(有)石川、藤田孝子(有)藤田新聞店、阿部憲子(株)阿部長商店

幹事 小野寺真知子(気仙沼交通観光(株))、村上三保(株)シマ精工、小松陽子(株)コマツ、安藤智子(株)美濃屋商店、小山容子(株)カネシメイチ、高橋徳子(株)日本無線電業社、川村悦子(株)かわむら、高橋あや子(株)ニュー泊崎荘、三浦てる子(有)三浦板金工業、須田利子(有)かね久海産

監事 喜多タキ(有)まるきた商店、浅倉眞理(株)三陸新報社

顧問 千田絃子(宮城三菱自動車販売(株))、鈴木千枝子(有)高野印刷所

女性部会の平成二十九年度通常総会が、去る五月十二日サンマリン気仙沼ホテル観洋において開催された。

第一号議案・平成二十八年度事業報告及び収支決算承認の件、第二号議案・平成二十九年度事業計画案及び収支予算案承認の件が原案通り可決された。

また、第三号議案・任期満了による役員改選の件では、審議を諮ったところ事務局案で異議なく可決承認された。

新役員陣容は以下のとおり。

◆**部長** 渡邊うめ子(有)亀甲運輸

新部長に就任した渡邊うめ子氏は「女性部会は部会員相互の親睦と自己研鑽の場として、楽しく活動が続けられるよう精一杯務めさせていただきますので、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します」と挨拶を述べた。

総会後には気仙沼税務署・千葉税務長を講師に「税務研修会」を実施し、相続税・贈与税・事業承継にまつわる税制等について判りやすく解説していただいた。

事業者として関心が高い分野の税知識であり、皆熱心に聴き入っていた。



去る六月二十一日南三陸ホテル観洋において宮城県女性部会連絡協議会主催の研修会が行われた。

今回は気仙沼女性部会が主管となり、県内各地の女性部会から約百名の参加があった。

研修は始めに、南三陸ホテル観洋の女将で気仙沼女性部会副部会長の阿部憲子氏による講演『千年に一度の災害は、千年に一度の学びの場』を行った。

講演要旨は次の通り。

「二〇一一年三月十一日、地震後間もなくから多くの住民の方も避難して来るような状況で、ホテルの向かい側にある女子寮の方がより高台で安全性が高いと考え、お客様と住民の方を誘導しました。今までにない大きな揺れだったのですぐに対策本部を立ち上げ、ス

タッフを集めて「お客様・住民の方が最優先。心を強くもって頑張りました。電気も水も止まり道路も通行出来ずホテルが孤立してしまいましたので、食料が底をついては困ると思い厨房の責任者にまずは一週間分の献立をたてるよう指示しました。状況を踏まえ、一週間経った時にまた次の指示をしよう」と自分なりに考えました。

一旦区切りがついたのは一週間目の朝でした。

力を合わせて乗り越える

住民の方とボランティアや復興支援の方、併せて数百名が館内にいましたが、その必要量の三分の一まで給水出来るようになったのは五月の初めでした。人口流出が更に深刻になることを懸念し「二次避難所」を引き受けました。

その際、出来るだけ子供のいる家庭と経営者の方々をお世話させて頂いていただきたいということを申しました。子供達がいなくなると復興の担い手を失うし、経営者が立ち上がらなければ雇用の場が整わず職を求めて人々が町からいなくなってしまうと考えたからです。

専門家の方からは、引きこもりにならないようにという指導があ

りました。そこで新しいコミュニケーションの始まりということを意識し、自治会を作ろうと考えました。フロア毎に班長を決め、毎週ミーティングをして要望を伺いました。いろいろなイベントも試み、二年間で六百回位行っていました。避難所になって少し経った時に、ある方が「ここは一つの家族なんだ」と言ってくれた時にはそういう関係性が出来たことをとても嬉しく感じました。

大勢の子供がここから学校に通いましたが、母親達から教育が心配だという声が上がりました。それで寺子屋を始めようと勉強のスペースを準備しました。避難所は八月いっぱい閉じましたが学習支援は今も続けており、子供達がこの大震災をバネにしながら頑張ってくれている姿は希望の光だと思っています。

地元の取引先から廃業の連絡が届くようになり、立ち止まっていたら大変なことになると思い、レストランを開くことにしました。

観光業は裾野が広い産業だと捉えられています。私も動くことにより仕入れ先等の関係する商店の方たちに再起の兆しが見受けられるようになり、大変嬉しく、もっといろいろな知恵を働かせて前

進みなくてはと考えました。

仮設の商店街が町に建設されると外からのお客様が増え、賑やかになってきたと感じる一方で、わかりにくい場所に点在している商店は苦戦しているということに気が付き始めました。そこで二〇一三年に「南三陸てん店(てん)まっぶ」を作りました。スタンプラリーにしてユーモアのある内容で企画しましたが、お陰様でマップをもっと商店に来る方を見かけるようになったり、よく行っていた店が廃業したのか再開しているのか判らないという状態だった地元の方にも役に立ったようでした。

大変光栄な事にこのマップは、観光を通じて地域活性化に貢献した人を表彰する為に県で創設された「観光みやぎ・おもてなし大賞」の第一回大賞に輝く事が出来ました。関係者の方々にも喜ばれ、有り難く嬉しく思っています。

災害から学ぶ

この震災で沿岸部の町は定住人口を大きく失い、それぞれの町が交流人口の増加を願っていますが、やはり現地に来ないと判らないことがあると感じています。

「津波でんでんこ」という言葉は「津波が来たら、でんでんばらばら

でも高台に逃げる、自分の命は自分で守る」という意味ですが、これは津波だけで無く他の災害にも通じる大切な教えだと思っています。

振り返ってみても「スタッフはよく考えて行動してくれたな、現場の判断が大事だから現場力をもっと強化しなければ」と思い知らされました。

特に経営者には待ったなしの判断が求められたと思います。私もあの時、外にいたスタッフから指示を求められ、場合によっては生死を左右する結果にもなりかねず、やはり責任者の判断は重いと痛感致しました。マニュアルが非常に

重んじられている時代ですが、「未曾有」とされた東日本大震災はそれだけでは十分ではなかったというのが事実ですので、やはりこの大震災から多くを学ぶべきではないかと感じています。

今は全国各地で災害が多発していますので、中には「東北で被災地を見ていたことが、自分が災害にあった時に参考になった」と言われるケースもあり、体験談を聞くことは非常に参考になると思います。私も以前、中越地震を経験した新潟の旅館の女将さんからいろいろとお話を伺っていました。その時の話を思い出している確かな

断に繋がったこともあり、様々な事例を聞いておくことも重要だと思っています。

千年に一度と言われる出来事ですから、従来の捉え方だけでは問題が解決出来なかつたり、困り事がある方とそれを解決出来る方とが上手くマッチング出来ないというケースもありましたが、それぞれの分野で権限や影響力のある方には現地に足を運んでこの震災をよくご覧になっていただきたいと願う次第でございます。

語り継いでいくこと

多くの方に来ていただくことは町を元気にします。それには交通の便が非常に重要で、特に東北は二次交通が不便なのが震災前からの問題点なので交通インフラの整備は諦めないで願い続けなくてはいけないと思っています。

「語り部バス」を始めたのは、以前この町を知らない方達から道案内を頼まれるようになったのがきっかけでした。被災した地区に足を運ぶと初めから更地だったと思われるようになり、元の様子をきちんとお伝えしたいと考え本格的に始めることにしました。

南三陸町は昭和三十五年にもチリ地震津波で犠牲者が出ている地

域で、海に近い地区の方はその事を家庭の中で語り継いでいて意識が高い傾向がわかりました。私たちもこの経験を子や孫に縦の伝承・まだそういう災害に遭遇していない方には横の伝承をと、心して取り組みねばと思っています。

「語り部」には地域の方にも協力していただき、今まで三十万人以上の方をご案内しています。そして現地で見聞きしたことを「第二の語り部」として周りの方に伝えていただければ幸いです。

震災後に自助・共助・公助が大事だと言われるようになりましたが、やはり大切なのは「自助・共助」ではないかと思っています。近くの方との支え合いがどうしても必要だと思えますので、平時より関係性を築いていくことが大切だと身に染みて感じております。

実は三月十二日の日の出は今まで見たこともないくらい大きく、燃えるように赤々として何事も無かったかのように昇り、人間の無力さを思い知らされるようで言葉になりませんでした。私自身「これからは強い日の出のような気持ちを持って生き抜かなければ」と心に誓った場面でした。銘々が故郷を思う気持ちがないと震災からの苦難を乗り越えられないと思

ます。私たちも海とともに生きるということ、この故郷の最大の危機に立ち向かっていかなければならないと思っています」

講演後は昼食会をはさんで「語り部バス」に乗り、復興に向けて南三陸町の状況を視察した。

語り部からの説明を受け、参加者は震災の記憶をたどりながら、それぞれの来し方行く末に思いを巡らす有意義な研修会となった。



会社の看板

(株)YKリーダーズコンサルティング代表取締役 柳澤 一夫
ブランドを考える

私が教育顧問を務めている会社の社長と話しているところに、金融機関の担当者が来られた。以下は、彼が帰った後の社長とのやり取りです。

「彼は最初、全くの新規飛び込みだったんです」「ほう：」「何度も、電話でアポイントをとってきたが、私は取り合わなかった」「ああそうですか：」「何度、断つても電話を寄こすんです」「ほう、それは熱心ですね」「で、ある時(ジェスチャー入れながら)こんな分厚い封書が届いた。うちに対する思いが綴られていました。しかも。手書きで。ありや、まるでラブレターだ。しかも、我が社をよく調べている内容でした」「今どき熱心な方ですね。で、社長、その後に会ったんですか」「いや、それでも会わなかった」「そこま

でされて、どうして？」

心というか、粘りというか……まあ、それでも、結局、会うことになって……」

「取引を？」「うん、話を聞いてみて、あれだけ良い提案するところがなかったんで、試しに少し……」で、それからどうなんですか？」

「彼の数字も上がったんじゃないか、うちと取引できてる……」。

営業に、看板は必要です、強力な看板は、営業担当者を間違いない、後押ししてくれます。とくに、新規訪問のアポイント取りの場面では大きな力になります。

この事例の金融機関は、どなたでもわかる大看板です。「さぞかし、営業面では有利だろう」と想像する方は少なくないと思いますが、実際はこの通り、なかなか大変です。

途中で諦めていたら、この会社との取引はなかったでしょう。そこで、「会社の看板(ブランド)」を考えてみます。

全国的にバームクーヘンで知られた(株)たねや(滋賀県近江八幡市)をご存知でしょうか。農業関連の仕事をしてきた創業者が野菜などのタネを扱う稼業に転換。その後、七代目になり、京都で和菓子の修行をして、故郷に戻り、始めた店と聞かれています。

和菓子の店で、「種家(たねや)」と屋号を決めた理由が、違う屋号を打ち出したものの、多くのお客様に「ああ、あのタネ屋さん」とこの店か」となり、「お客様が馴染んで使っている屋号を大切にすべき」と考え、明治初期の創業から今日まで、「たねや」で通されたとのこと。

顧客視点で物事を発想する近江商人らしいエピソードです。

看板、すなわち会社のブランドとは何かを考えてみると、まずは、その会社の秀でた『①強み』でしょう。具体的には、商品の素材、デザイン、味、色、風合いなど様々あります。

このたねやさんの場合は「味」。実際にいただいてみますと、上品な甘さと生地の上り感と味が圧迫しているのです。

さらに、そこから『②物語』が誕生します。

伊勢丹の新聞広告は商品紹介そっちのけで、その商品が生まれた背景、その後の歴史、それを愛用する人のエピソードなど、「心理的な価値」を、巧みに訴求しています。

紳士物にこだわりを持つ伊勢丹が語るから、映える

のです。

さらに、『③人格化』、つまり「ブランドを一個人間として捉える意識」も、ブランドの厚みを増すうえで重要です。

「商品」、「提供する店舗」、「従業員のサービス姿勢」などから醸し出す、「雰囲気」、「独自の世界観」を味わいたくて、リピーターはまた足を運びます。

したがって、ブランドは単なる「耳障りの良いネーミング」ではありません。

真の狙いは、自社商品や店舗、提供方法、さらには従業員のありようを見直す「リエンジニアリング(事業の再構築)の啓蒙」にあります。

再構築すべき事業を発見するためにも、今一度看板を見直されてはいかがでしょうか。

看板は、大切です。

法人会はよき経営者を目指すものの団体として会員の積極的な自己啓発を支援し、納税意識の向上と企業経営および会社の健全な発展に貢献します。

正しい税知識をはじめ企業経営に求められる知識や情報を提供する為、セミナーや講演会を開催し、経営者自身や幹部社員・各部門担当者の人材育成にもお

役に立っています。

また、常に企業の立場で全国の会員の声を集結し、大局的見地から税制改正について強く意見活動が続けており、仲間が多いほど大きな実りがあります。

お知り合いの事業所で、まだ会員になっていない方がおありでしたら、是非ご紹介ください。



法人会 税の活動で企業・社会に貢献

未加入企業を
ご紹介ください
——
会員募集中
——

法人会セミナーのご案内

わかりやすい“会社の通信簿”の読み方

基礎からわかる！決算書の授業

講師：加藤 敦子 氏（アルト経営パートナー(株)代表）

日時：8月23日(水)

午後1時30分～4時30分

会場：サンマリン

気仙沼ホテル観洋

(気仙沼市港町4-19 電話 24-1200)

受講料：会員無料・非会員2,000円

受講希望の方は事前に事務局までお申し込みください

《セミナー内容》

1. 決算書は会社の通信簿
2. 簡単！決算書の読みこなし
3. 銀行はここを見ている
4. 数字から見えてくる
課題と改善点など

公益社団法人 気仙沼法人会 《電話・FAX 22-9107》

DAIDO

T&D
T&D保険グループ

大同生命保険株式会社

仙台支社 石巻営業所

石巻市穀町3-15 太陽生命石巻ビル5F
TEL (0225) 22-5551 FAX (0225) 94-5320

名刺・伝票・ハガキ・ラベル・会報等々
—— 最短納期でお応えします ——

目隠しシール「情報守くん」、省資源対策「往復封筒」等
自社開発商品もございます。

双葉印刷株式会社

〒988-0045 宮城県気仙沼市田谷11-2
TEL (0226) 23-3737 FAX 24-0963
<http://www.futaba-insatsu.co.jp>

暑中お見舞い申し上げます

五十音順



株式会社
足利本店

代表取締役 足利 宗洋
気仙沼市港町五の一
電話 (033) 231-1111 番
FAX (033) 251-3022 番



株式会社
日真倉庫

代表取締役 日井 真人
倉庫業・運送業
本社 気仙沼市長磯二本松一八二
電話 (033) 251-9102 番
大谷倉庫 気仙沼市本吉町石川原三五三一
仙台港倉庫 仙台市宮城野区港四丁目五一
仙台空港 岩沼市空港南一丁目三一

有限会社 **亀甲運輸**

亀甲自動車整備工場



気仙沼市長磯鳥子沢一
電話 (033) 271-5488 番
FAX (033) 271-5607 番



気仙沼信用金庫

理事長 菅原 務
気仙沼市八日町二丁目四一〇
電話 (033) 221-6830 番



「生きる」を創る。
Affrac
アフラック
仙台総合支社

〒九八〇一六二二
仙台市青葉区中央一丁一 アエル三F
TEL (033) 262-1561 〇
FAX (033) 262-1582 〇

有限会社

菓子舗
うつみ

代表取締役 内海 哲郎
気仙沼市田中前一丁四一十
電話 (033) 221-8620 〇
FAX (033) 221-7731 一



熊谷電気株式会社

電気設備工事・消防設備工事・電気通信工事
代表取締役 熊谷 光良
〒九八八〇〇六六
気仙沼市東新城一丁目二二二
電話 (033) 221-0849 九
FAX (033) 221-0749 九



株式会社
郷古紙店

品質を暮らしを、大切に考える
紙・日用品・雑貨・文具
卸業
気仙沼市西八幡町三九
電話代表 (033) 221-3511 一
FAX (033) 221-3527 七



建設で創造する豊かな社会
株式会社
阿部伊組

代表取締役 阿部 隆
本社 南三陸町歌津字港一七五二
TEL (033) 361-1111 一



株式会社
カネダイ

代表取締役 佐藤 亮輔
気仙沼市三日町二二一十五
電話 (033) 221-2480 番



株式会社
気仙沼商会

代表取締役 高橋 脩
代表取締役 高橋 正樹
本社 宮城県気仙沼市南町一〇一六
TEL (033) 231-1600 〇
FAX (033) 221-6681 一

有限会社
山本セメント

代表取締役 山本 富士男
〒九八八〇七二五
宮城県本吉郡南三陸町字沼田一五〇一五
電話 (033) 221-4613 〇四
FAX (033) 221-4616 〇二

アーバン株式会社

暑中お見舞い
申し上げます

株式会社
かわむら

代表取締役 川村 賢壽
宮城県気仙沼市唐桑町高石浜二二五
TEL (033) 221-1143 番
気仙沼工場 (033) 242-2525 番
岩手工場 (033) 537-7037 番

アフラック
法人会厚生制度募集代理店
(有) **ケイフク保険企画**

気仙沼市松崎柳沢三八二〇〇
〒九八八〇二〇〇
TEL (033) 221-5802 二
FAX (033) 221-4957 七

株式会社
沼正工務店

代表取締役社長 沼倉 正也
本社 〒九八六〇七四四
宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森七一三
TEL (033) 246-1211 五
FAX (033) 246-1685 五